

平成 28 年度第 3 回「墨田区子ども・子育て会議」
「学齡ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成 28 年 10 月 5 日（水）午後 8 時 10 分から 8 時 45 分まで
会場：墨田区役所 12 階 122 会議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題

議 題	資料
学齡ワーキンググループの実施中間報告について	

- 3 閉会

出席者(敬称略)

委員

野原 健治 (興望館館長)
佐瀬 一夫 (中学校 PTA 連合会顧問)
内田 淳 (青少年委員協議会委員)
根里 美佐 (堅中地区青少年育成委員会委員長)
小菅 崇行 (小菅株式会社代表取締役会長)
熱田 美帆 (公募)

< 欠席委員 >

服部 榮 (社会福祉法人雲柱社理事長)
押田 剛 (主任児童委員)
相澤 しのぶ (立花吾孀の森小学校 PTA 会長)
中村 信幸 (連合墨田地区協議会議長)
島村 博 (菊川小学校長)
松井 隆 (寺島中学校長)

部課長出席者

石井 秀和(子ども・子育て支援担当部長)、浮田 康宏(子育て支援課長)、杉崎 和洋(子ども課長)、高橋 義之(待機児童対策担当副参事)、岡本 香織(生涯学習課長)

事務局出席者(検討チーム含む)

柿畑、岩佐、藤井、土井

事務局(株名豊)

糸魚川

傍聴者

なし

1 開会

2 議題

(1) 学齢部会実施中間報告

委員	<p>議題は一つ、学齢ワーキンググループの実施中間報告についてです。そして、内容については子ども・子育て会議にて、みなさまの認識を広げたいと思っていましたが、事務局より、まずは学齢部会で行っていただきたいとの話がありました。学齢部会が今年、どのような形で進めるのかを確認した内容です。一つは学齢部会の役割があります。もう一つは昨年策定されたものを学齢部会が何を検討すれば良いのかということを挙げています。はじめに児童館のあり方検討をしなければなりません。放課後子ども教室の拡充については今、進んでいます。実際に現地に赴き、見てきました。放課後子ども教室と学童クラブの連携も同じです。学童クラブの拡充は利用したい方が大勢いますが、実際は対応が十分にできていない現状です。策定の中でどこまで本当になっているのかを書き出していかなければなりません。学童クラブの質の向上については、質とは空間も同じですが、人の配置、どのような状況で行われているのかを考える必要があると思います。これを追わなければなりません。職員の意識の共有もしていかなければ、学童クラブは向上しません。保育園には様々な歴史があります。そのような点で、積み上げのある保育士はある程度の専門職として認知されていますが、学童クラブの指導員はやや浅く見られているところがあるように感じられます。保育士の待遇について話題になっていますが、学童クラブの職員の待遇はさらに低いです。様々な条件は保育園の比ではありません。学齢部会としては、これをまず認識して、把握しておく必要があります。相談体制の整備や放課後子ども総合プラン推進委員会の開催が今年、行われるのかどうかについてです。まだ行われていませんが、これをモニタリングするのが学齢部会の役割です。これは子ども・子育て会議全体で認識しておかなければいけないと思います。どうしても保育に偏ってしまいます。私が今日、みなさまにお話ししたかったことです。実際、どのような学齢部会にしていくのかについて、5月24日にここで話し合いをしました。その際、実際に携わっている人の声を聞く、利用者の声を聞く、これが基本姿勢になります。そして、今度は放課後をどのように考えるのかについてですが、特に学校と福祉の間の溝は深く、なかなか共有化されません。子ども・子育て会議の中で一緒に考えることが重要です。それをテーマに全体討論ができないのかをここで提言しましたが、いまだに実現していません。有志による児童館、学童クラブ、放課後子ども教室の現場訪問の実施が可能かどうかについては、実際に四吾小学童クラブ、放課後子ども教室に訪問して、実際に見させていただきました。桜橋のコミュニティーセンターは定員増が図られていました。学童クラブが43名のところ、40名ほど増えて80数名になっていました。増えたのは良いことですが、子どもの数が急に増えて、大人の数も増えて、配置としては良いかもしれませんが、空間が追いついていません。そのことにおける子ども同士のトラブル、安全の問題、子ども同士のトラブルが親同士のトラブルになります。もし、被害、災害等のことを考えた場合、しっかりと見ていかなければいけません。学童クラブの現状を把握しておく必要がありますが、私一人が言っても仕方ありません。会議全体で知る必要があると思います。関係課長、係長との協議も8月31日に行いました。学齢部会に臨時の学齢部会を1回もち、できれば年度内に学童の課題についてのシンポジウム等を開き、全体で考える機会が必要だという提言を</p>
----	---

	<p>しようと思い、事務局との話し合いをここで行いました。シンポジウム開催については反対ではないが、今年度ではなく次年度が望ましいというお話でした。それを伺いながら、みなさまの意見や同意をいただいているのに、私一人で学童が大変だから、現状を全体で話し合わなければならないと言っても独りよがりになるだけです。私的には、訪問も含めて、学童の問題は大きく、地域福祉的観点から見ると、谷間の問題だと思います。教育と福祉の谷間の問題です。本当は学童をみなさまで考えていかなければなりませんこれからますます課題は増えてくるでしょう。収容能力の問題、質的な問題、これをしっかりと話し合いをしておかなければならないと思います。学童クラブの需要は潜在化します。塾に行く、公園で遊ぶ、家にいる等の状況です。学童クラブに入れない子どもたちもいます。保育園は入園すれば、卒園するまで面倒を見てくれますが、学童クラブは1年ごとです。1年生では入れても翌年入れるのか、続けられるのかどうかは分かりません。また、障がいを持っている子どもたちへのケアの問題については、人は付いてもその事柄はどうなのか、どこまでの内容で行うのか、課題が山積みです。学童クラブについて、英語塾なのか、高額な学童クラブ、4、5万かは分かりませんが、そのようなものが非常に増えていることも事実です。そのようなことをにらんで、学童の整備はどうしても必要だと思いました。量的、質的な対応が追いついていません。詰め込みになって、このことにおける危険もあると思います。そのような点では、シンポジウム等を開催して、区民の関心を喚起することは重要だと思い、提言は続けていきたいです。これはみなさまのご意見やどのようなことに取り組んでいけば良いのかのお知恵やお力もいただきながら、進めなければできません。私は現場訪問で様々なご意見をいただきました。その中でかいつまんでの提言として、このようなことを考えた報告でした。一言ずつご意見をいただき、次回以降、どのようにこれを反映していけばよいのか、ご意見をいただければありがたいと思います。</p>
委員	<p>これをまずは提案しないと先に進みません。考えたいことはたくさんありますが、ご提案のとおり、先にそれを進めなければ、その先がないならば、このとおりにご提案をお願いしますとしか言えません。</p>
委員	<p>100%出られるわけではありませんが、子育て会議は学齢、乳幼児に引っ張られる形になります。それも大切なことですが、青少年委員協議会から来ていますので、まさに学齢部会で行うことの方が我々の組織等呼び寄せて、何らかの解決策の一つが提案できるのではと感じています。</p>
委員	<p>はなみずき児童館へヒアリング、インタビュー調査で訪問しました。感じたのは、学校や地域との連携において、児童館に関する事は児童館となっていることです。学校から児童館へ行く間のことについてもお互い擦り付け合い、トラブルがあった場合、放課後だから児童館の問題だ等、もう少しお互いの協力体制が整えば良いと思いました。放課後子ども教室の現場訪問もぜひ行きたかったのですが、予定が合わず行けませんでした。実際に増えている子ども教室やいきいきスクールも前向きに見ていただき、区が安心して過ごせる環境になればと思っています。</p>
委員	<p>今回が初めての委員もいらっしゃいますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>先ほどの学齢部会の話についてです。保育園の話は、自分の子どもは全員成人して、保育園のことを直接言われてもピンと来ません。今年、20歳になる子どもがいます。私は菊川小学校、堅川中学校地区になります。菊川小学校は昔、児童数も多く、各学年3クラスでした。</p>

	<p>20年以上前の話ですが、空き教室があり、学校内に分室の児童館がありました。その20歳の子どもはそこに3年間、お世話になりました。副会長からもお話がありましたが、1年ごとに高学年は入れなくなり、1年生が優先でした。様々な条件があったと思いますが、なかなか入れない状況でした。放課後クラブのいきいきスクール等、墨田区でも3校くらいへ生涯学習課から費用を出しています。学童クラブのような形で保護者や地域の方が子どもの面倒を見ています。様々な課題があることは耳にしていますが、先ほどもお話がありましたが、子どもの環境、子どもがどのように放課後を過ごすのかを最優先に考えることがよろしいかと思えます。私も育成委員会としては、乳幼児は厳しいですが、小中学生に向けた行事や今月も非常に多くの地域のイベントがあります。育成委員会も地域の児童館も参加しているお祭りもあります。そこで学校、地域、児童館が連携できると、顔見知りになり、コミュニケーションが上手に取れて、ギスギスせずに進めていけるのではないのでしょうか。イベントを行うことは非常に大変ですが、年に二回の行事です。</p>
委員	<p>共同作業として大事です。</p>
委員	<p>これが定着して、地域も学校も上手にいけば、顔見知りになって、良いことだと思います。非常に大変なことです。育成委員会はそのようなことに関わらせていただいています。</p>
委員	<p>次世代育成から長く、この会議に参加しています。副会長とも長く、話をしています。特に子ども・子育て会議になってから、制度のことを最優先で進めなければならないことは当然、墨田区のみならず私たちも同じです。本来、我々が抱えている問題は制度と具体的には学齢が抱えていること、私は企業側からの参加なのでワークライフバランスのこと、様々なことがあります。子ども・子育て会議になってからは、保育園制度の確認に時間が取られてしまいます。全体的なことが語られていないと非常に感じます。これは時間がないので仕方ありませんが、前回も私は、五つの柱の中でも大きな一つの柱のワークライフバランスが全く語られないままに任期が終わるのは非常に切ないという話をしました。その際、墨田区でシンポジウムを企画していただきました。みなさまへ少し啓蒙させていただき、男女共同参画とも共同のセミナーを開いています。相対的に手をつけること、時間を取ることが非常に重要で、副会長の気持ちがよく分かります。今年は開かないと下がるより、ここでもう一回、みなさまとどのくらいの時間が取れるかは分かりませんが、全体会議で、制度できちんと数字で決められることではありませんが、方向性をみなさまで共有するくらいの時間ができれば、素晴らしいことだと思います。</p>
委員	<p>放課後の実際のニーズと困っている現実、利用者の中でぶつかっている様々な課題を知ることです。やはり、子どもの育ちとはどのようなものなのかという議論ですが、そのようなことも織り交ぜて語るときがなければ、技術論か制度論になるのか、それとも要求集会になるのかです。はじめから要求集会にするつもりは全くありません。子どもの将来をどのように考えるのかを進めたいです。事務局にはそこを積極的に動いていただけるとありがたいです。墨田区で区長が言われているように、地域力日本一にする、墨田で育った子どもが墨田にまた住み続けられる墨田区にすることを進めるためには、この部分は急所です。先日、山本区長がタウンミーティングを開きましたが、本来は子ども・子育て会議が協賛すべきもので、子ども・子育て会議が公であれば、区民活動推進課と民生委員と一緒に進める中身だったと思います。放課後の子どもや将来の子どもをどのように考えるのか、墨田区の将来を考えるのであれば、学童を中心に子どもの放課後をどのように考えるのか、</p>

	<p>今度は区長にもお越しいただき、会にもって行くことはできないのでしょうか。あまりにもバラバラで話ができません。この話を唯一できるのは、子ども・子育て会議しかありません。私の任期もあと一年です。それだけは、進めておきたいと思っています。委員の方の協力が得られれば、そのような会へ積極的に事務局には動いていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>先ほどの提言に「放課後問題は、教育と福祉の谷間」とあります。実は墨田区でもこのような部分があり、時間が経って申し訳ありませんでしたが、来年度より組織改正があり、放課後問題について、教育か福祉かの論争はありましたが、望ましい放課後対策のあり方の検討は教育が中心になって行う位置づけになりました。</p>
委員	<p>教育で行うのでしょうか。私はどちらでも構いませんが、一本化しないとイケません。</p>
事務局	<p>もう一つ、学童クラブ、放課後子ども教室のそれぞれの事業はそれぞれの所管が進め、両者の連携は教育が中心になって取り組みますが、児童館自体は法令上も福祉が根拠になっていますので、児童館自体は我々で主体的に考えています。そのような組織分けを行うことを来年度、4月から予定しています。</p>
委員	<p>子ども・子育て会議の特別部会で出した提案書があります。児童館は児童の包括支援センターになってほしいです。そのような意味で、児童館に中学生から、町会から、様々なところで関わりができると良いです。</p>
事務局	<p>そのような意味では児童館によっては町会の協力を得ながら、様々なイベントを行っているところもあります。法律上も18歳までが児童館の責任範囲です。児童館は中高生がより一層来るような努力をしなければなりません。児童館は、18歳までの方は千客万来ですが、一方で学童クラブについてはどうしていくのか、保護者、特にこのような時代なので、安心・安全についての心配が非常にあると思います。一方で、学童に行くと、ずっと大人の目がある世界である程度メニューが決められていて、制度上はそこに小学校高学年の子どもまでいます。自立していくために、遊びも勉強も自分で行うことは自分で決める意思決定や判断ができるよう、どのように子どもを育てていくのが気になります。</p>
委員	<p>それについては児童館の職員からも伺いました。子どもの権利条約では、社会・グループへの参加について、基本的に大人がどのように関わっていくのかが明言されています。</p>
事務局	<p>それを今の学童の形を単に高学年まで拡大することが良いのか、それとも自主的に通う児童館という中での対応があるのかについて、議論をしていかなければいけないと思いました。</p>
委員	<p>まずはワーカーとして、どのようなアプローチをしていくのか、子どもの成熟度を見ながら、子どもの自己決定に基づいた、そして、グループ参加、対人関係のつくり方を見た、いわゆる児童館のプログラムとは何かを児童館・学童クラブの職員の研修会を含めて行います。そこに保護者も加わるような機会を設けるとよろしいかと思えます。そのような研修会にもっていき基本的になる考えとは何か、そこから出発して、今の児童館・学童クラブは今後、どのようにならなければならないのか、あまりにも今は水準が隔に追いやれている現状からスタートしなければいけません。そこから見て、どのように取り組んでいくのか、基本的な理念をみなさまで確認していくことをこの子ども・子育て会議の中で回を重ねながら、打ち立てていかなければなりません。そして、今、谷間になっている部分を一本化して進めていく方向性を区長中心に将来の子どもたちを育てるため、放課後に焦点を当ててほしいです。</p>
事務局	<p>区の体制としては、ご示唆をいただきながら、時間がかかり申し訳ございませんでした。来年4月からはご指摘の谷間に焦点を当てるような組織体制をとろうと今、動いています。</p>

委員	委員の方と一緒に学齢部会を進めていきたいと思っています。先ほども話がありましたが、今までは技術的なことが多かったです。しかし、もう少し展望、社会の構造、特に学童は非常に遅れています。この部分を見ながら、これから学童、中学生・高校生になっていく、この時期が決定性していきます。同意が得られるように会をもっていけたらと思います。
事務局	学童が遅れているということは、具体的にどのようなことを差しているのでしょうか。
委員	最低基準の問題です。それから、職員配置の問題、給料の問題等、山積みしています。
事務局	たとえば、千客万来方式になった場合のメリットと、墨田区の学童クラブのように、基本的には法律に基づき、親の就労により、目を届けないといけない福祉に着目した形とするか、いかがでしょうか。
委員	今度の子ども・子育て会議、次世代行動計画は全ての子どもについてです。
事務局	そのような意味では狭い意味の学童クラブ、児童福祉法に基づいた学童クラブではなく、千客万来方式が良いという話でしょうか。
委員	墨田区の場合、今までの多様な形があって良い、今まで踏襲されてきた事柄を尊重や交流し合い、方向を考えて、多様化を認めてほしいです。次世代育成の際に確認した事項です。保育のように蓄積が十分にされているよりは、連絡も存在もそれぞれ分からない中で行っています。それを一同に会する基盤・プラットフォームをつくることを子ども・子育て会議が定期で提言していけば、そこに学童クラブの蓄積ができるはずです。
事務局	墨田区が遅れているということでしょうか。
委員	墨田区が遅れているわけではありません。学童クラブ全体が日本で遅れています。
事務局	子育てに関して、墨田区は一生懸命、細かく取り組んでいる方だと思っています。
委員	一般財源化された児童館を、いわゆる児童の健全育成の基盤にしていくと言っている市区町村は数少ないです。そのような意味では基盤がありますが、バラバラです。スタートラインは保育との格差がこれだけあるという意味合いです。学童クラブ・児童館自体が遅れているという意味合いです。
事務局	子どもの権利条約等で言われていることが、一般論、日本全体として、クリアされていないことを言われているのであって、格別に墨田区が遅れている話をしているわけではないということでしょうか。
委員	子どもの権利条約は今回、児童福祉法の中に盛り込まれて、国の考え方になりました。その考え方は教育も福祉も全て賛成です。子どもがどのように育つのか、権利条約の中に明確に書かれています。それぞれの実践を通して、教育関係者も福祉関係者も、関係する団体の様々な方たちがもう一度、確認しながら、児童施策や子どもの将来も一緒に考えていく機会にこの子ども・子育て会議をしてくださいという意味合いです。最後に一言、二言あれば、お願いいたします。
委員	宣伝ですが、私の地区には立川児童館というワーカーズが運営している児童館があります。今月の23日、第四日曜日に大きな立川フェスティバルという児童館と地域、小学校と一緒にコラボしたお祭りを開催します。
委員	中学校も15日にふれあい祭りを文花児童館にて、遊びの一つのコーナーを仕切って、開催します。1,200、1,300人、スタッフを入ると1,800人になります。ぜひ、15日もよろしくお願いいたします。
委員	私が知っている限りでは、私がPTAに携わっていたときも児童館から竹馬や遊具を借り

	て、小中学校のイベントを開催していました。墨田区全体になるとわかりませんが、自分の学区の中の児童館では学童クラブもイベントもありました。
委員	すでに役員を辞めさせていただきましたが、そのようなこともあり、上手に自分の地域では学校、地域、児童館、学童クラブと連携が取れて、子どもたちのために良い環境づくりを担っていると思っています。
委員	区の方針もそこに着目して、存在感があります。小学校2校に1館あります。条件もありますが、ほとんど老朽化していて、その問題もあります。10館直すのは大変だと思いますが、そこまでするのかという話です。
事務局	子ども・子育て支援の新制度がはじまり、両国と文花にある子育てひろばのような機能について児童館でも取り組んでいこうという位置づけで考えています。来年度から、子育て支援拠点としての位置づけを明確に行う予定です。赤ちゃんを連れのお母さんが来て、時間を過ごす場所として使わなければなりません。安心して子連れのお母さんが来ることができる施設にしていきたいと考えています。
委員	整備されていない等の話ではなく、そのような話、夢のある話、そこからどのように進めて行くのかの話をもちたいと思っています。先ほど、そのことについてはそこからスタートですという話がありました。もし、ご指示がいただけるのであれば、今度の親会議で学齢部会の考えの提案をお出しすることにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。時期については、事務局と話しながら、事務局の様々なご都合もあると思いますので、そのようにしたいと思っています。よろしいでしょうか。長くなりましたが、今日は終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

次回学齢 WG 開催予定

未定

以上